

## VOICE

### 他者との共存をめざしてウイルスと総会の開催について考えた

大阪府勤労者山岳連盟事務局長 高橋明代（くすのき山遊会）

現在（2020年3月19日）、常任理事会では総会開催を、延期・中止・対策を講じて予定どおり開催…で討議中です。

私は文書で意見を交わして1か月かけて総会をしてはという意見です。その理由は、延期といっても、いつになれば心配はなくなるのか先が読めないからです。それならば、この閉鎖的な状況を逆手にとって一か月間みんなで決算や予算、これからの一年間の大阪労山の歩みを皆で好き好きに語り合ったらいいんじゃないか…という発想です。おそらく延期の方向で決まるとは思います。

しかし、こんな時だからこそ発想の転換が必要だと思うのです。3月12日の朝日新聞でブレイディみかこさん（イギリス在住。保育士・ライター。「ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー」でノンフィクション大賞受賞）の「新型コロナウイルスと差別」というコラムに教えられました。彼女は「世界を真の危機に陥れるのはウイルスではなく恐れだ」と記しました。

ついこの前までトイレトペーパーを買うための長蛇の列や咳エチケットをしないからと地下鉄の停止ボタンを押した事件などが分かりやすい例だと思います。そして彼女のコラムは以下の文章でしめくくられていました。

「知らないことに直面した時、人は間違ふ。だが、間違いに気づく時には無知が少し減っている。新型コロナウイルスは閉ざされた社会の正当性を証明するものではない。開かれた社会で他者と共存するために我々を成長させる機会なのだ」

他者と共存するということ…労山の活動でも大切なことだと思います。真実を知り共存することを軸に次年度も活動していきたいと思います。

そしてどんだん山に行くぞ～臆せずに…。